

中・高一緒の活動を通して
絆を深め、大きく成長

園家先生 ●本校は中高一貫校です。前半の中学3年間では多くの経験を積ませ、後半の高校3年間で将来の進路にどのようなつながっていくのか、試行錯誤しながら生徒一人ひとりの立場に立って取り組んでいます。

石川先生 ●私は陸上競技部の顧問ですが、クラブは中・高一緒に活動し、高校生が中学生の面倒を見たり、中学生が高校生にわからないことを聞いたりして、先輩・後輩の交流が深いのが良い点ですね。これは文化部でも同様です。だからこそ、全国大会で優勝するなど素晴らしい成果が出ているのだと思います。

園家先生 ●生徒だけでなく、教員同士



早い時期から将来について考え、目標を持つきっかけにもなる中2の職場体験の様子。

職員室座談会

「知」「徳」「体」のバランスのとれた全人教育をめざしている同校。スポーツ、文化活動ともに全国レベルで活躍する文武両立の共学校です。中高6年間の学校生活を通して生徒達がどのように成長していくのか、4人の先生方にお聞きしました。

昭和学院

中学で多くの体験を積み
高校で具体的な進路につなげ
人間力で将来の夢をかなえる

も中・高の担任を移動して行うので交流は深く、さまざまな経験を積む中で生徒に対して幅広い指導ができるようになります。

西村先生 ●中1生は学校に慣れるのが精一杯という感じですが、中2になると学習習慣が身につけてきて、部活動も勉強も頑張るようになります。

本校では中2から職場体験をさせていますが、早い時期から将来の生き方を考え、目標を持つようにすることは大事です。学校行事なども生徒自らの手で運営し、達成感が持てるように指

導します。目標を持つと何事に対しても自覚が出てきます。また、毎朝20分間の朝自習があり、読書週間を設けて朝読書も行います。このような積み重ねが大きな成果につながっていきます。

大塚先生 ●私は現在中1の担任で、昨年は中3担任でしたから、生徒が3年間で大きく成長することを実感しています。中学校の文化祭は縦割りで、3学年一緒に委員会を作り、自主運営しています。リーダーの3年生を中心に、3つの展示室をどのように作り上げていくのか話し合います。1年生もしっ



左から園家誠二先生(教務副部長・海外教育研修団長)、石川毅先生(入試広報部・中3学年副主任・陸上競技部顧問)、西村由起枝先生(入試広報部員・中2学年副主任)、大塚裕子先生(入試広報部員・中1学年副主任)。

かり話していて感心しました。こちらが意見を言わなくても、きちんと組み立てていく力があると思えましたね。

を積み重ねることにつながります。中1は日帰りで近郊へ、中2は1泊2日で鎌倉・富士五湖、中3は2泊3日で京都・奈良に行っています。出かける前には必ず自主的に「調べ学習」をしています。みんな分厚い小冊子を作っていますが、みんな分厚い小冊子を作っています。現場でさらに新たな発見があるとメモをして、帰ってきてから小冊子を完成させます。

ホームステイで異文化体験
人間力を育むきっかけに

園家先生 ●学校生活の中で中1から自主的に動き、経験を積み上げていくと、高校に上がった時に違ってくる。高1の夏休みにカナダのバンクーバー郊外に行く海外研修を実施していますが、異文化体験も大きな成長のきっかけになります。

西村先生 ●園家先生が引率でしたね。

園家先生 ●研修は希望制で、今年は45名が参加し、3週間のホームステイ体験をしました。バンクーバーは多民族都市のような場所です。本校の生徒達は同じような価値観、習慣のいわば箱庭で育ったような状態ですから、異文化の中で、お互いの違いを認め合っていて生きていく大きな社会を見て、何かを感じてほしいです。現地では英語ができる生徒が上手に対応しているとは限りません。英語が苦手でも身ぶり、手ぶりでホストファミリーと良い関係を築く生徒もいます。大事なのは語学力だけではなく、人間力の育成。生徒達の間力を育むことが大事だと痛感しましたね。

石川先生 ●中学で行う校外教育も経験

センター(図書館)の3人の司書がサポートしてくれています。蔵書は6万冊以上と充実していますが、例えば生徒が必要な本が図書館になかったら、千葉県立中央図書館に依頼し、取り寄せてくれたりします。

知性・感性・体力
文武両道の学校

園家先生 ●本校は女子校の時代が長く、その頃は体育系の部活が強かったのです。共学化して10年。スタート時は大変でしたが、最近では水泳、陸上、ハンドボール、テニスなど男子も各部門が良い結果を出すようになり、高校では男子のハンドボール部がインターハイに出場しました。文化系も種類が多く、吹奏楽部、書道部は実績があります。卒業生が我が子を入学させるケースも多くなっています。

西村先生 ●祖母の世代から3代続いているというケースもありますね。

石川先生 ●今年のインターハイに高校では女子のバスケットボール、男・女



部活動が盛んな同校では、吹奏楽部をはじめ実績の高い部が揃っています。

ハンドボール、女子ソフトテニス、男・女水泳、女子体操、女子新体操の各部が出場しました。バスケットボール部は全国2位、新体操部は全国3位でした。中学では全日本中学選手権にソフトテニス(女子)、水泳(男・女)、新体操(女子)が出場し、新体操部は全国2位でした。また、文化部でも吹奏楽部やバトン部が、全国の舞台で活躍しています。千葉県下でも、これほど多くの種目で出場できる学校は少ないと思います。生徒の頑張り、保護者の応援、担任の先生や顧問の先生方の支援があり、学校と家庭の良い関係が築かれているからこそ上手くいっているのだと思います。

西村先生 ●試合を見に行くと、生徒の顔つきが教室にいる時と違っていいですね。部活の顔、授業の顔、行事の顔と

生徒一人ひとりにいろいろな面がありますが、どれも手を抜くことなく頑張っています。全国大会に出る生徒などは、勉強も良い成績です。

大塚先生 ●個別指導も充実しています。教員から指示する場合もあります。生徒が自主的に「教えてください」と質問して学ぶ姿がよく見られます。

石川先生 ●ラウンジやミーティングルーム、廊下などのスペースで自習したり、生徒同士がインターネットで調べたりして一生懸命学んでいます。

園家先生 ●補習も各学年で計画して実施しています。生徒は補習になると部活の練習に参加できないので、周囲に迷惑をかけないようにしっかりと勉強します。教育目標の文武両道がきちんと守られています。生徒たちにとって、信頼できる先生、先輩、顧問など、いづれか一つでも安心できる場所を作れる学校でありたいと常に思っています。

西村先生 ●中・高で身につくことは、その後の生き方に大きく関わってきますから、大切な時期に、心を育むよう道徳にも力を入れています。教員も学び合い、心を豊かにして、生徒たちが立派な社会人になれるような教育をめざしていきたいと思っています。

大塚先生 ●生徒たちに、言葉は人を傷つけるためのものではないことを教え、言葉は人を励まし勇気づけるものだと伝えていきます。カウンセリングマインドを忘れず、生徒一人ひとりに配慮しながら向き合っていきたいと思っています。